

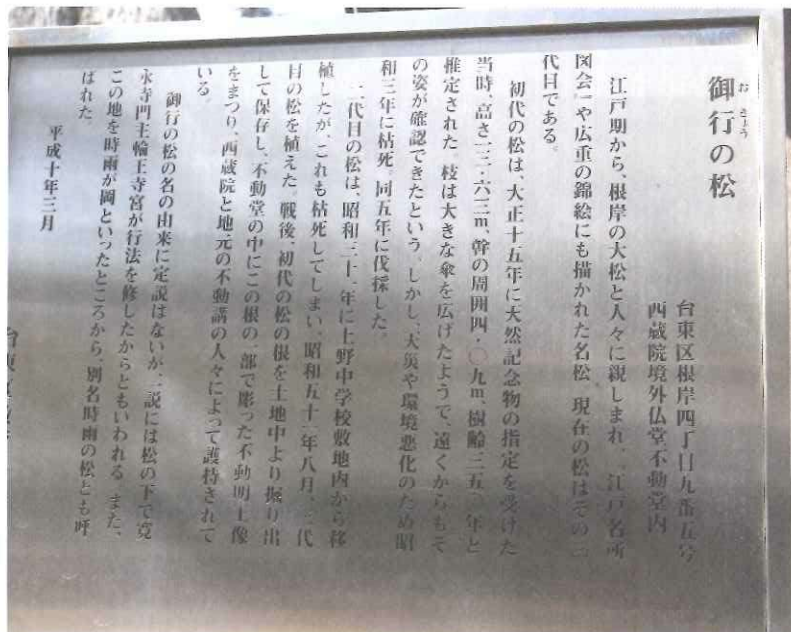
〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
 発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
 TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
 発行人 脇阪 義幸
 印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



令和元年
5月号

暮らしの中の仏教

墓石への法名刻みはお問い合わせください。

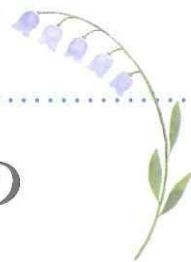


今月の予定

11日(土)	午後6時
15日(水)	午後1時半
17日(金)	午後2時
19日(日)	午後2時
21日(日)	午後2時
23日(木)	午後2時
26日(日)	午後2時
28日(火)	午後7時

同行会(木村主任)
 婦人会聞法会
 東京教区研修会(西徳寺)
 城南ブロック会第100回記念聞法会(西徳寺・本堂)
 『歎異抄』に聞く 講師:宗 正元師
 燈虹塾「シアターX」
 城西ブロック会総会・聞法会(「庄や」・中野南口店)
 仏教青年会『歎異抄』に聞く 講師:宗 正元師





子どもは育てるのではなく育つもの

えこおファイル在庫あります。

四月で一歳を迎えた長男。昨日できなかったことが、今日できるようになっている。子どもの成長の速さには本当に驚かされる。同時に日に日に増してくる自己主張に手を焼いている。

こちらが与える物には興味を示さず、触ってほしくない物ばかりに手を伸ばす。「コラ!」と叱れば叱るほど、かまってももらえると勘違いして喜ぶ。子育てがこんなに厄介だとは、正直想定外である。言う事を聞かない我が子にイライラが積もるばかりである。

この言葉に出会い、親(私自身)が我が子を用意意識の内に、自分の所有物にしようとしていたことに気づかされた。だから言う事を聞かないと苛立ち叱る。それがエスカレートすると、現在大きな社会問題になっている虐待に繋がるのだと思うと、正直ゾッとした。

確かに親は自分を犠牲にして子どもを育てているかもしれないが、決して子は親の所有物ではない。親の本来の役目は、すすく成長する我が子を、サポートすることではないだろうか。

「健康で元気に育ってくれるだけでいい」、そう思っていたはずが、いつの間にか自分の思いを子どもに押し付けている私がいる。

子が育つということは、実は私自身が親として、また人として育てられていることに、あらためて気づかされる。

(蓮井 邦宗 記)



私は
こう聞いた!!

4月に掲げた山門の言葉
「蛹が終末とを感じる瞬間を
蝶は始まりとを感じる」
を皆さんはどう聞いたのか、
お尋ねしました。

確かにそうなのだけれども、サナギやチョウ自身が感じるのはずいぶん後になってからだと思う。10年経ってみて、「ああ、あのときのことが始まりだったな」と。人を見て感じられても、自分自身のこととして、すぐには感じられないと思う。(40代 自由業 女性)



終わりがあると思えば始まりもある。同じ生き物でも変わるということですね。初心を忘れず、人生のメリハリを大事に生きていきたいと思います。(50代 歯科医師)

年を重ねるごとに、ただただ『単調』な日々を過ごしていると感じる時もあります。そんな毎日の生活の中でも、ちっぽけな変化や出来事を見逃さずに生きていくことが、『大切』なのだと思います。(30代 男性)





はなきち
(有)花吉榎本生花店

今回は戦後まもなくから竜泉で花屋を営んでおられる(有)花吉榎本生花店さんに行ってきました。三代目社長の榎本隆さんにお話を伺い、お墓のお花がどのようにして西徳寺に届けられているか取材してきました。そしてなんと貴重な競りの現場(北足立市場)にお邪魔することができました。そこにはデジタルが主流になっている現代社会では珍しくなった、人情味溢れる豊かな世界が開かれ、いい意味で人間臭さが残る活気みなぎる現場でした。



「きっちゃん」の愛称で親しまれている榎本隆社長



1. 初めての競り見学にテンション高めの山崎



2. 競りの前に競り人と早速値段交渉する榎本さん



3. 行きつけの定食屋で腹ごしらえ



6. 目当ての品物が出ると、業者と競り人のやり取りで、どんどん落札されていきます



5. 7時のベルが鳴ると、競り人の威勢のいい声で競りが開始



4. 今朝はアジのたたき定食量も味も大満足!!



7. 帽子がなくても番号を覚えてもらえて、初めて一人前だそうです



8. やり取りは真剣そのもの場内の雰囲気もヒートアップしていきます



9. この手の形です競りを「手ゼリ」といいます



12. 華香所へ納品。お寺がいろいろの方に支えられていることを実感します



11. 愛車に跨って西徳寺へ



10. 市場で仕入れた花を束にしていけます奥さんとの息の合った作業はさすがです!

インターネットの普及により、競りに出る前に花の購入ができるようになり、昔のような張り詰めた緊張感は少なくなったと話す榎本さん。でも市場に行くと競り人や業者といった関係を超えて馬鹿を言い合える仲間がいる。それが何よりの楽しみであり、市場に通い続ける原動力でもあるようです。私たちの生活する上で、最も大切でありながら失念している、持ちつ持たれつの関係が、そこには充満しているのを感じました。

(有)花吉榎本生花店

住所：東京都台東区竜泉3-21-1
電話：03-3872-7493



何を隠そう「花吉」の字は大谷最高顧問が書かれました

法語カレンダー 五月

十方の如来は
衆生を一子のごとくに
憐念す

仏さまは、どこでもいつでも子供を心配する親と重なります。阿弥陀様を親しみ込めて「親様」と呼ぶところもあります。

一子は一人っ子ではありません。兄弟が何人いても愛情は一人ひとりが100%です。

実はあの人もこの人も、そして私も如来の子。仏の眼で見ればみな兄弟(凡夫)。

今日も親様の元で感情むき出しの兄弟げんか……信頼しているからこそ喧嘩できるのかもしれません。

(山崎 哲)

The Tathagatas of the ten quarters compassionately regard each sentient being as their only child.

語句説明 Tathagatas：如来 quarter：方向、方角
compassionately：情け深く regard：心づかい、心配、顧慮
sentient：感覚がある sentient beings：凡夫

一口メモ

凡夫は英語で sentient beings なんですね。直訳すると感覚がある生き物、感覚のない生き物っているんでしょうか？

春季永代経法要(本山差向布教)報告

去る3月22日(金)、春季永代経法要をお勤めいたしました。この度、差向布教使としてお越しいただいたのは、大阪市東住吉区・仏願寺住職・藤井良丸師でありました。藤井師は協阪住職とは50年来のお付き合いで、東京での布教は初めての縁だとお聞きしました。

お檀家さんとのエピソードや、身近な話題などを取り上げながらお話しくださいました。その中でも『アンパンマン』の作者である、やなせたかしさんが作詞をした「何のために生まれて 何をして生きるのか」こたえられないなんて、そんなのは嫌だ(『アンパンマンのマーチ』)という歌詞を紹介され、「人間とは、どう生きるのが本当のことなのか」をたずねるという、人生にはとても大切な使命があることを教えていただきました。

(木村 専正)



藤井良丸布教使



年間の墓地管理料・維持会費のご納入をお願いします。

城北ブロック会報告

3月10日(日)、東京大空襲から74年の日、また翌日が東日本大震災から8年という日に、城北ブロック聞法会を開催いたしました。

大空襲では10万人以上、大震災では1万5千人の方が亡くられました。日を問わず、時間を問わず、私たちの想像もつかない大勢の方々が、いのちを尽くし歴史に没していかれ、そしてその方々が私たちの大地となってくださっているのです。私たちはその大地、足元を忘れた生活をしているのではないのでしょうか。「関係をいただく私」という原点から始まる教えが、南無阿弥陀仏となって、私たちに届けられている。そのことを聞法会を通して教えていただきました。

なお、次回は6月9日(日)午後2時より、川口市にあります総合文化センターリリアにおきまして、総会・聞法会を開催いたします。ぜひお気軽にご参加ください。

(担当：仲井 真裕)



同行会修習式報告

3月30日(土) 午後5時半より本堂にて同行会修習式を開催し、脇阪住職から表彰状と記念品の授与がありました。

平成最後となった今回の修習式では、安藤会長のご提案により、それぞれに思い入れのある一字をボードに書き留め、一同で記念撮影をしました。

令和元年を迎える今年度も、皆さまと一緒に学んで参りたいと思います。

(担当：大橋 伊知郎)



城南ブロック会 第100回記念聞法会のご案内

西徳寺5ブロック会は、昭和59年2月26日の第1回城南ブロック会聞法会からスタートを切りました。平成を貫いて令和元年に100回を迎えます。そこで下記の内容にて記念聞法会を開催いたします。

記念すべき時を城南の枠を超えて皆様と祝いたく、ご門徒の皆様にご案内申し上げます。お誘いあわせの上振るってご参加ください。

城南ブロック会役員一同

— 記 —

日時 令和元年5月19日(日) 14:00～16:00

場所 西徳寺本堂

講演 「西徳寺ブロック会の願いと歴史」 大谷最高顧問
「親鸞聖人のご生涯」 脇阪住職

※城南役員が作成したテキストを差し上げます!

※城南ブロック以外のご参加希望者はお電話にて申し込んでください。(城南担当 山崎 哲)

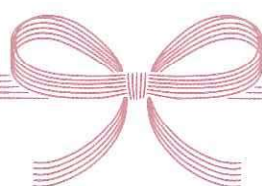
TEL 03-3875-3351



えこお志お礼

大阪府	仏願寺 様
新潟県	西廣寺 様
葛飾区	加藤 護 様
板橋区	木下 好江 様
北区	小山 光子 様
大和市	齊藤 祐三 様
世田谷区	塚本 和子 様
松戸市	野坂 敏明 様
台東区	平岡 誠司 様
葛飾区	宮崎 秀夫 様
港区	安井 均 様
台東区	小林 浩子 様
愛知県	西村 知津 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



Relation ～縁～

Relation: 関係、関連、結びつき

巻頭フォト：初代御行の松と不動堂
住所：東京都台東区根岸4-9-5

台東区根岸にある西藏院の不動堂（御行の松不動尊）に存する松の名前。初代「御行の松」は大正15年に天然記念物「名木」として指定を受けました。大正12年の関東大震災、大正14年3月の日暮里の大火災での被害を免れましたが、大火以降樹勢が衰え環境の変化に耐えることができず、昭和3年の夏には枯れ死してしまっただそうです。平成30年3月に「四代目松」が植樹され、町のシンボルとなるように願われているようです。

（蓮井 邦宗）

今年の「えこお」は地域、そして関係ということ念頭に置きたい。

今回の「行ってみた!」は市場だったが、競りは品物と金額だけの関係ではない。

しかも、競りの時だけの関係でもない。普段の付き合いが織り込まれている。顔が見えない、声が聞こえない時代。どこことなく懐かしい場所であった。

（山崎 哲）

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ saitokuji@ce.wakwak.com



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook